

今冬はインフルエンザ、 COVID-19 同時流行に警戒

菅谷憲夫 SUGAYA Norio/慶應義塾大学医学部客員教授
 日本感染症学会インフルエンザ委員会委員
 国際インフルエンザ学会 (ISIRV) 理事
 国際抗ウイルス薬会議 (AVG) 運営委員

インフルエンザが戻ってきた

日本では 2020/2021 年に続いて、翌 2021/2022 年シーズンにもインフルエンザの流行が見られなかった。したがって、2 年連続して、インフルエンザの流行がないという異常な事態となった。2020/2021 年シーズンは、日本のみならず、世界各国でもインフルエンザ流行はなかったが、昨年から今年の 2021/2022 年シーズンは、北半球では、COVID-19 流行と同時に、インフルエンザの流行が戻ってきた(図 1)。米国では、昨年末からインフルエンザが増加し、小流行となり(図 2)¹⁾、ヨーロッパでは、フランス、スウェーデンで比較的に大きな流行となった。これら欧米諸国の流行は、主に A 香港型ウイルスによるものであった。アジア諸国でも、マ

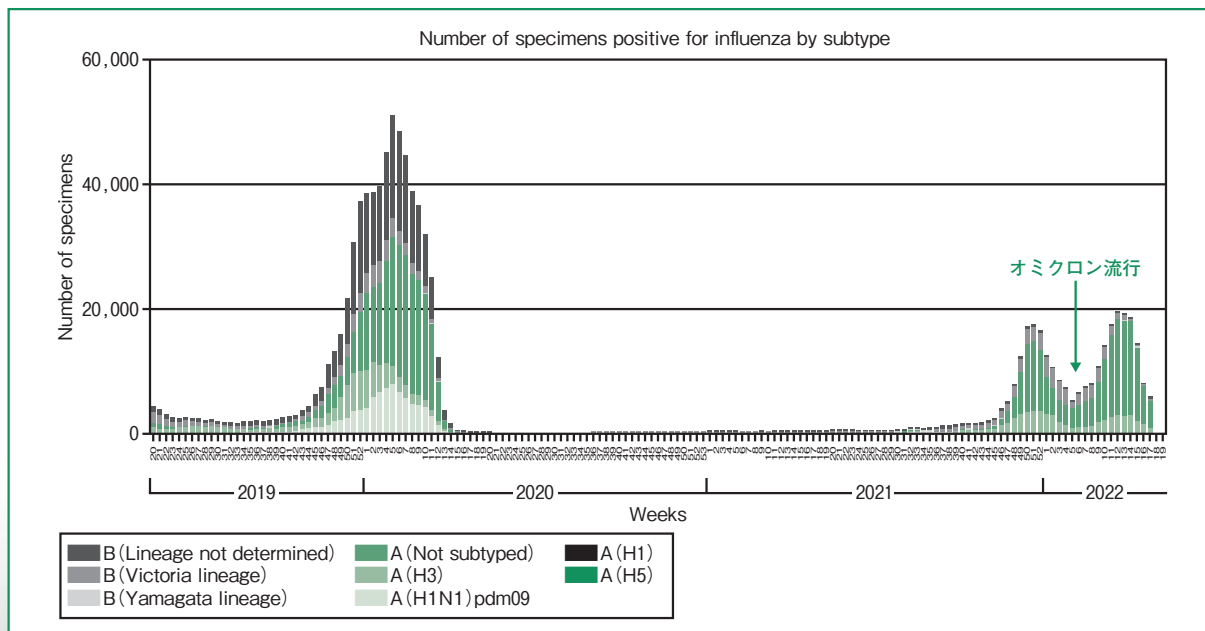


図 1 北半球でのインフルエンザ流行，2019～2022 年

2019/2020 年シーズンは、SARS-CoV-2 出現により、2020 年の 20 週前後でインフルエンザ流行が中断した。2020/2021 年シーズンはインフルエンザ流行がなかったが、翌 2021/2022 年シーズンは小規模であるが、A 型インフルエンザ中心の流行が見られた。2021 年末から 2022 年 1 月にかけて、インフルエンザ流行が中断したが、オミクロン株流行の干渉によると考えられる。

(FluNet, WHO より引用)